

東南アジア研究所

I	研究の水準	研究 31-2
II	質の向上度	研究 31-5

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展をめざす地域研究拠点」等の6件の大型プロジェクトを実施している。
- 第2期中期目標期間の教員一人当たりの研究発表の年度平均の件数は、著書2件、英文論文4件、和文論文3件、国際学会発表4件、国内学会発表3件となっている。
- 東南アジア研究のハブとして、第2期中期目標期間において国際公募による計83名の研究員と計119名の招へい外国人学者を受け入れている。
- 第2期中期目標期間において国外の49機関との学術交流協定を締結しているほか、平成25年度には東アジア・東南アジアの9機関の協力により、「アジアにおける東南アジア研究コンソーシアム」を設立して、国際研究ネットワークを形成している。

観点1-2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 東南アジア研究の国際共同研究拠点として、文理融合型の共同利用・共同研究を推進している。第2期中期目標期間において計163件の課題を採択して共同利用・共同研究を実施しており、その数は平成22年度の19件から平成27年度への33件へ増加している。また、これらの研究によって13名が学会賞等を受賞している。
- 第2期中期目標期間の共同利用・共同研究に関する資源・設備等の提供及び利用状況は、図書類の貸出・閲覧・複写利用件数は12,864件、マイクロフィルム・マイクロフィッシャー利用件数は1,032件、データベース利用件数は16,840件となっている。また、研究会・シンポジウム等を約500件開催し、参加者の総計は約12,000名となっている。

以上の状況等及び東南アジア研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を大きく上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、研究所の研究目的に即して、フィールドワークを重視しながら人文社会科学と農学・生態学・医学を融合する学際研究を実施している。特に地域研究の細目で特徴的な研究成果があり、これらの研究成果により、国際シンポジウムの招待講演や基調講演を行っている。
- 特徴的な研究業績として、地域研究の「持続型生存基盤研究の開拓」、「タイ・ミャンマー国境域の社会・文化動態研究」、「東南アジアで越境し、世界に広がる重要な腸管感染症と蚊媒介性感染症の地域特性の解明とその予防対策の確立」の研究等がある。
- 社会、経済、文化面では、特に地域研究の細目で卓越した研究成果がある。研究成果が国際社会の政策の現場からも注目されており、特にミャンマーやブータンの政府への政策提言にもつながっている。
- 卓越した研究業績として、地域研究の「土壌、水文、地域経済からみた熱帯地域の生存基盤持続性研究」、「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」がある。「土壌、水文、地域経済からみた熱帯地域の生存基盤持続性研究」は、本研究によりインドネシア泥炭湿地における火災による地球温暖化への影響がグローバルな問題として認識されるようになってきている。「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」は、高知県土佐町とアジア諸国の高齢者ヘルスケアに関する調査であり、研究成果がブータン保健省第11次5か年計画に採択されている。また、長年にわたるフィールド医学の成果によって、研究者が平成27年度文部科学大臣表彰・科学技術賞・理解増進分野（地域高齢者の健康意識向上を目指すフィールド医学の普及啓発）を受賞している。

(特筆すべき状況)

- 研究所の研究目的に即して、フィールドワークを重視しながら人文社会科学と農学・生態学・医学を融合する学際研究を実施している。
- 卓越した研究業績として、地域研究の「土壌、水文、地域経済からみた熱帯地域の生存基盤持続性研究」、「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」がある。「土壌、水文、地域経済からみた熱帯地域の生存基盤持続性研究」は、本研究によりインドネシア泥炭湿地における火災による地球温暖化への影響がグローバルな問題として認識されるように

なっている。「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」は、高知県土佐町とアジア諸国の高齢者ヘルスケアに関する調査であり、研究成果がブータン保健省第 11 次 5 年計画に採択されている。また、長年にわたるフィールド医学の成果によって、研究者が平成 27 年度文部科学大臣表彰・科学技術賞・理解増進分野（地域高齢者の健康意識向上を目指すフィールド医学の普及啓発）を受賞している。

以上の状況等及び東南アジア研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、東南アジア研究所の専任教員数は 23 名、提出された研究業績数は 6 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 6 件（延べ 12 件）について判定した結果、「SS」は 4 割、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 6 件（延べ 12 件）について判定した結果、「SS」は 4 割、「S」は 5 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 大きく改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間から化学研究所、エネルギー理工学研究所、防災研究所、生存圏研究所等との共同研究を開始している。これにより、従来からの人文社会系の研究と農学・医学の学際的研究に加え、最先端化学や理学に関する研究を実施している。
- 第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）までの研究対象地域を包括的に理解する観察型研究に加え、第2期中期目標期間には実践的研究を促進しており、研究者コミュニティのほか地域の住民組織や民間組織、政府機関との協働を密にしている。
- 第2期中期目標期間において国外の49機関との学術交流協定を締結しているほか、平成25年度には東アジア・東南アジアの9機関の協力を得て、「アジアにおける東南アジア研究コンソーシアム」を設立して、国際研究ネットワークを形成している。
- 東南アジア研究の国際共同研究拠点として、文理融合型の共同利用・共同研究を推進している。第2期中期目標期間において計163件の課題を採択して共同利用・共同研究を実施しており、その数は平成22年度の19件から平成27年度の33件へ増加している。また、これらの研究によって13名が学会賞等を受賞している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 従来の学術論文や学術著書としての研究成果に加えて、研究成果に基づく政策提言等により、地域社会や国際社会における政策形成に寄与している。卓越した研究成果である「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」等による政策提言は、高知県土佐町10回、ブータン保健省7回、ミャンマー政府機関5回となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 第2期中期目標期間において国外の49機関との学术交流協定を締結しているほか、平成25年度には東アジア・東南アジアの9機関の協力を得て、「アジアにおける東南アジア研究コンソーシアム」を設立して、国際研究ネットワークを形成している。
- 従来の学术论文や学术著書としての研究成果に加えて、研究成果に基づく政策提言等により、地域社会や国際社会における政策形成に寄与している。卓越した研究成果である「本邦ならびにアジアにおける地域在住高齢者に対するフィールド医学の創出」等による政策提言は、高知県土佐町10回、ブータン保健省7回、ミャンマー政府機関5回となっている。